

春のマルチメディア祭り

# アートとマルチメディアの対話

開催企画書

平成10年2月

ふくおかマルチメディア研究会

# 企画概要

主催 福岡県

共催 ふくおかマルチメディア研究会

協賛 イムズ 九州電力 NTT福岡支店

協力 フェイズ オリエンタルネット

ギャラリー企画・実施 New Cyber-Chinatown P-HOUSE

## 実施予定日

- 平成10年3月21日 土曜日 春分の日
  - トークセッション
- 平成10年3月22日 (日曜日)より29日 (日曜日)
  - マルチメディア・ギャラリー
- 平成10年3月21日 土曜日 春分の日
  - サイバーパーティー

会場 イムズ 5F ふくおかマルチメディアプラザ (仮設)

- ギャラリー／パーティー
- イムズ 6F 九州電力イリスホール
- トークセッション

## 目的

- 福岡におけるマルチメディアコミュニティの地元生活者に対する認知と地元マルチメディア従事者間の相互交流。
- アジアおよび国内他地域の先駆者との交流および情報交換。

## 内容

- 3月21日に行われるトークセッションおよびパーティー、22日より一週間にわたって開催される期間限定マルチメディアギャラリーによる構成します。

### － トークセッション

マルチメディアタクティクス

できるアートコミュニティを生成せよ！

北京 - 福岡 - 東京

スピーカー

- 秋田 敬明 (P-HOUSE プロデューサー)
- 野知 潤一 (New Cyber-Chinatown 主宰)

### － マルチメディアギャラリー

P-HOUSE 秋田敬明氏および

New Cyber-Chinatown野知潤一氏プレゼンツによる  
期間限定マルチメディアギャラリー

### － サイバーパーティー Vol.2

マルチメディアギャラリーにて21日 (日曜日)開催

# ゲスト紹介

秋田 敬明 あきた たかあき  
P-HOUSE Gallery プロデューサー

高校卒業後、ニューヨークに渡り、映画やイベント、舞台、ダンスなどのプロデュースを手掛ける。帰国後、自室を改造しP-HOUSEギャラリーをオープン(94年)、第一回目の企画展は岡崎京子氏を迎え、オープニングに千人以上を集めたのを皮切りに、有名無名、ジャンルを問わない、斬新なプロデュースで東京のアートシーンに旋風を巻き起こす。96年に現在の恵比寿に移転。ギャラリー&カフェのスタイルで(吉川ひなの氏も遊びに来る)トレンドスポットの一つにも数えられている。P-HOUSEのスタイルは、プロデューサーと作家、そして若者たちの共同作業によるギャラリーづくり、その現場から東京の新しいアートコミュニティの萌芽が始まりつつあるともいわれている。

現在、立花ハジメ展を開催中。

野知 潤一 のちじゅんいち

New Cyber-Chinatown 主宰

仕事で渡った中国に縁を感じ、年齢40で留学。そこで、底知れぬ人間的パワーを持った芸術家たちと出会い、片やインターネットと出会った。この2つの出会いを軸に、北京の今を記録するプロジェクト、Cyber Chinatown が始まった。一昨年のインターネット・ワールドエキスポで展開した氏の試みを初めに、昨夏、インデペンデントな現代芸術展としては最大の動員を見せた王府井でのマルチスライドによるインスタレーションなど、インターネットを軸に様々なマルチメディア表現を用いたプロジェクトを通じ、新たなアートコミュニティの萌芽を今、北京で起こしつつある存在である。

New Cyber-Chinatown

<http://egg.tokyoweb.or.jp/comdex/newcc/new/>

1955年福岡県小倉出身。79年東京商船大学航海科卒業後、船舶会社の代理店を経て80年代末よりマーケティングプロデューサーとして活躍、汐留サントリービアレストラン“ジラス”等を手掛ける。95年、仕事で渡った中国に縁を感じ、北京・清華大学へ留学。97年卒業、現在新たな展開に向け準備中。

# 企画内容

talk-session+cyber party

## マルチメディアタクティクス

できるアートコミュニティを生成せよ!

を テーマに今までにないアプローチから新しいアートコミュニティを世界的に注目されるアートセンターで展開する秋田 野知両氏を迎え経験や考え方を披露して頂きながら、マルチメディアを軸にした「できる」アートコミュニティを福岡で実現できるのかを企む2時間です。

ゲストスピーカー

- 秋田 敬明 (P-HOUSEプロデューサー)
- 野知 潤一 (New Cyber-Chinatown 主宰)

セッション終了後、マルチメディアギャラリー会場にて、前回好評でありました「福岡サイバー界ふれあいの一刻」サイバーパーティーを引き続き、行ないます。

multi-media gallery

## アートとマルチメディアの対話

アートとマルチメディアは相互の可能性を拡張するためにもも無くしてはならない存在になりつつあります。

移り行く時代の空気と新しい世代の感性によって新しい表現が萌芽する、New Cyber-Chinatown の北京、P-HOUSEの東京、そしてfukの九州、この3つのアートコミュニティが注目する作家たちをフィーチャー、マルチスライドによるイメージシャワーを見るものに浴びせる期間限定のギャラリーを展開します。そして、fuk期待のふくおか在住のインタラクティブデザイナーチームによるWEBギャラリーを展開、インターネットによるバーチャルギャラリーの高みに挑み、公開致します。

なお、P-HOUSEにとっては初のインターネット上での展開になります。

# アートとマルチメディアの対話

## 出展作家紹介1

### TYO 東京 from P-HOUSE

- 岡崎京子 (岡崎京子展 :1994年)  
1963年生まれ 漫画家  
代表作 『好き好き大嫌い』 1989年 『ROCK』 1991年 『リバーズ・エッジ』 1994年 『I wanna be your dog私は兄貴のおもちゃなの』 1995年 『ヘテロセクシャル』 1996年 その他、多数。
- ジェイク&ディノス チャップマン兄弟  
(ジェイク&ディノス チャップマン展 :1996年)  
ディノス・チャップマン 1962年生まれ  
ジェイク・チャップマン 1966年生まれ  
共に1990年 ロイヤル カレッジ オブ アート(MA)卒業  
代表作 『私達はアーティスト展』 1992年 『戦争の惨禍』 1993年 『死人達に対する偉大な行為』 1994年 『Chapman World』展 1996年 その他、世界各地にて個展、グループ展多数。
- マイク・ケリー & ポール・マッカーシー  
(コラボレーションパフォーマンス & デストロイ・オール・モンスターズ ライブ :1996年)
- マイク・ケリー 1954年生まれ  
代表作 『Harf Man』シリーズ 1980年代後半  
『ソリッド・テイスト』展 1993年  
その他、世界各地にて個展、グループ展多数。
- ポール・マッカーシー 1945年生まれ  
代表作 『ウェイス・ペインティング』 1960年代以降、TVや映画のセット、食物、小道具を用いて性交や排泄、暴力といったテーマでパフォーマンスやビデオ作品を制作。90年代に入って、ドイツ、オーストリア、NYなどでも個展開催。
- 小谷 元彦 (小谷 元彦展 :ファントム・リム 1997年)  
1972年生まれ 代表作 (展覧会) 『POOL2』コレクション展 レントゲン芸術研究所 1995年 『Morphe 96』スパイラル 1996年 『掌2』 - Works on the palm - レントゲンクンストラウム グループ展 『マーティン』 ロンドン 共に1997年

# アートとマルチメディアの対話

## 出展作家紹介2

- ニヨロ展 (在東京の若手アーティスト、11人のグループ展 1997年)
- 村木初江 1978年生まれ  
1998年 CIIZEN新商品『CIIITA』広告に、作品が起用される。『Shall we go to The Living Loom』(ワタリウム美術館)出展予定 1998年
- 松本 力 1967年生まれ  
1996年 パフォーマンスユニット『ニチボ3』参加 1996年『ニチボなすノポート展』その他、舞台役者、映像制作、ライブ活動、グループ展など多岐に渡り活躍。
- 斎藤 公平 1972年生まれ  
『勉強時代展』1994年 P-HOUSE 『NAKED CAPTAIN』1997年 水戸芸術館 VOCA展出品 1998年 長谷川 佑子 (世田谷美術館学芸員 推薦)
- 野原 良太郎 1974年生まれ  
une neuなど、ファッション関連のショーの演出、オーガナイズを担当。1994年~1996年
- 坂本 大三郎 1975年生まれ  
漫画家 漫画雑誌『ヤングサンデー』(小学館) ヤングサンデー賞佳作受賞
- 日野 秀樹 1970年生まれ  
1994年 仏像修復師に見習いとして師事 1995年 アフリカ放浪の旅
- 榎本 祐一 1974年生まれ  
『DAYNAMO』展 1995年 『DAYNAMO』展 1996年 『NASCENT NAS』展 1997年
- 土屋 隆亮 1972年生まれ  
『ソニー・ミュージック・エンターテイメント・アート・アーティスト・オーディション』アップルコンピュータ賞 / 大貫卓也賞 / カールスモーキー石井賞受賞 URBANART# 2 佳作  
共に1993年 『ソニー・ミュージック・エンターテイメント』招待作家 1994年 『URBANART』# 4入選 1995年
- 五木田 智央 1969年生まれ  
イラストレーター 清水あかり 『DEAD CITY』(集英社) 装丁イラストレーション ソウルボッサトリオCDジャケット多数  
忌野清志郎アルバム 『GROOVIN' TIME』(東芝EMI)
- 川井 竜一 1976年生まれ  
ブラックカレーと言う名でのライブ、パフォーマンス活動。  
他に映像作品も制作
- 坂 知夏 1973年生まれ  
『4』(東京 立川市にてグループ展)  
『BKK』目黒美術館区民ギャラリー

# アートとマルチメディアの対話

## 出展作家紹介3

### PEK 北京 from New Cyber China-town

- 王晋 Wang Jin  
1962年 山西省大同市生まれ  
1987年 浙江美術学院 (現中国美術学院) 中国画科人物画専攻卒業。北京服装学院の教師となる。  
1992年 教師を辞め、実験芸術活動を開始。  
現在 北京在住
- 張大力 Zhang Da Li  
1963年 中国 黒龍江省ハルビン生まれ  
1987年 中央工芸美術学院書籍装幀科卒業。  
1989年-1996年 イタリア在住  
1996年 中国へ帰国 現在 北京在住
- 安宏 An Hong  
1963年 北京生まれ。  
1985年 中央工芸美術学院を卒業。卒業後、中央工芸美術学院でグラフィックデザインを教える。  
1992-94年 フィンランドの美術学院で書道を教える。  
1995年 中国へ帰国 現在 北京在住

### FUK 福岡 (九州)

- 角 孝政 1968年 福岡県生まれ  
1992年 佐賀大学教育学部特別教科 (美術・工芸) 専攻科卒業。  
代表作 (展覧会) 1991年 『飢人の休日』佐賀県立美術研究室 1993年 『不思議の国の来訪者』福岡市美術館ギャラリー 作品 『カイワレワニウム』芸術祭 1994年 『アトモスフィア』福岡県美術館 (MOA) 9月

# アートとマルチメディアの対話

## 出展作家紹介4

- 大分美術研究所 『サタデーナイト・レクチャー』  
1985年 二宮 圭一氏により『大分美術研究所設立』  
1993年 この年より大分美術研究所にて、山出淳氏を講師に『サタデーナイト・レクチャー』を開始する。

### 発表活動

- 1993年 『個人 関係 意味』作品を自由制作し、研究所内、または研究所周辺の好きな場所に設置する。
- 1994年 『解放運動』大分駅前地下道
- 1995年 『14展』大分郊外 カラオケボックス内
- 1996年 『デマゴークギャラリー』大分市内の商店街に面したスペースにてバッグ(生徒制作作品)販売
- 1997年 『みんなで小屋を作る』研究所内ベランダ

- 高木 哲 (1967年、東京生まれ)  
1994年 金沢美術工芸大学美術学部彫刻科卒業  
1995年 『やさしく愛して』インフォームギャラリー / 金沢』1996年 東京芸術大学大学院美術研究科修了  
1997年 研究生として、1年間同大学院に在籍  
現在、CCA北九州在籍  
1998年 『本当に心動かされることなんて、そんなはない。』ギャラリー SOAP 『なんで泣いているの?』マン研ギャラリーアートサロンピンク / 金沢  
以降、予定  
岡本 光博とのユニット『trouble』展 ギャラリー SORP 『100万円の美』ギャラリー SORP



## アートとマルチメディアの対話

# プロジェクトスタッフ

### リアルギャラリーの部

- プロデューサー  
秋田 敬明 (P-HOUSE / TYO)  
野知 潤一 (New Cyber-Chinatown / PEK)  
及川 千鶴 (fuk, P-HOUSE fukuoka / FUK)
- 新規撮影  
真野 聖俊
- 企画・実施  
NEW CyberChinatown  
P-HOUSE Gallery
- 協力  
古澤 博志  
MOMAコンテンポラリー  
alternative gallerySOAP  
松尾 太一  
IAF

### オンラインギャラリーの部

- プロデューサー  
岡田 智博 (fuk, coolstates / 総合)  
野知 潤一 (New Cyber-Chinatown / PEK)
- ディレクター  
後藤 明子 (fuk, ペンシル)  
野村 政行 (fuk, 九州芸術工科大学)
- コンテンツ編集 (fuk magazine の部)  
江月 義憲 (fuk, EZ)
- インターネット技術協力  
オリエンタルネット

propaganda

# 出版製作物

## fuk magazine の出版

本イベントに際する広報とともに、福岡のストリートカルチャーとマルチメディア・スタイルとのリンクをテーマにした、フライヤーマガジンを発行します。

fuk magazine というこのプロジェクトは発行部数10,000部、ストリートカルチャーの中心である大名・西通り地区の人気スポットを中心にスポッティングいたします。

内容は、前回のポストペッチーム (ソネットのCMでお馴染みの)によるイベントからのコンテンツと、今回のイベントおよびオンラインプロジェクトのプレビューを軸に、ストリート(巷)を沸かせるシーンの「きも」の部分やインターネットの中に潜む「シズル」感のある話を福岡から、東京、アジアの事情通からのレポートで彩るものです。

「春のマルチメディア祭」の協賛メリットとして福岡で初めての本格的フライヤーマガジン・fuk magazine への広告を募集しています

発行部数 10,000部 配布価格 無料

ターゲット 福岡在住のマルチメディアに関心のある高感度な若者および学生層。

**大名・薬院・赤坂**一帯で従事する若手マルチメディア製作者。

配布地域 天神・大名・赤坂・薬院地区の飲食店・ショップ、専門学校、マルチメディア関連企業を中心とする場所にて

ページ構成 A5 白黒 12ページ

配布開始日 3月18日

### 価格表

表4 200,000円 (併せてオンラインギャラリーにバーナー広告枠がつきます)

中 1ページ 100,000円 (併せてオンラインギャラリーにバーナー広告枠がつきます)

中半ページ 50,000円 (併せてオンラインギャラリーにバーナー広告枠がつきます)

記事下 1コマ 10,000円

# ふくおかマルチメディア研究会について

世界的にも独自のマルチメディア文化・産業の風土を持つ、福岡地区のマルチメディア文化の振興と国内外での表現者、関係者との交流、それによる独自のインダストリアルソサエティーの創造を目指して、ふくおかでマルチメディアに関わる有志によって結成された、文化NPO団体です。

現在、インターネット上での連絡システムを正式な運営手段とし、地理上での事務局は存在していません。参加メンバーのリストは、ホームページ上にあるメンバーリストを通じて閲覧することができます。

ふくおかマルチメディア研究会 (FUK)  
ホームページアドレス

<http://coolstates.com/fuk/>

現在 fuk.gr.jp を申請中

## ふくおかマルチメディア研究会の歩み

- 平成8年11月22日 fuk設立の母体となるミーティングが福岡地区のマルチメディア従事者たちの手によって催される。
- 平成9年7月 「マルチメディア事業協同組合ふくおか」設立準備会発足。
- 平成9年10月 同業組合の枠にとらわれず、ふくおか独自のマルチメディア世界の創造を目指して協同組合設立準備会を発展的解散。
- 平成9年11月29日 「ふくおかマルチメディア研究会」設立。  
設立記念イベント「マルチメディア収穫祭」を「マルチメディアグランプリ」受賞直後のポストベトナムを招いて実施する。
- 平成10年3月 この年をふくおかなマルチメディア認知年とし、プロフェッショナルリティーをテーマに、第2回イベント「マルチメディア春祭り」を開催予定。

各部門の運営を取り仕切る存在として、幹事と運営を専門的見地からアドバイスを行なうスーパーバイザーを置き、研究会全体の円滑な運営にあっております。幹事は会員互選によって決定されております。

## 幹事会メンバー

- 幹事長 松尾 晴之 (プロデューサー・ピクニックマニア)  
運営担当幹事 岡田 智博 (プランナー・アジアビジネスセンター)  
総務担当幹事 吉川 哲也 (プランナー・アットマーク)  
事業担当幹事 伊勢 和宏 (Nifty 九州フォーラムSYSOP・九州大学医学部)  
江月 義憲 (コンテンツディレクター・イージー)  
スーパーバイザー 坂井 滋和 (映像製作者・九州芸術工科大学助教授)  
藤浦 一都 (編集者・プランニング秀巧社)  
中野 誠一 (システムエンジニア・オリエンタルネット)

# お問い合わせ先

ふくおかマルチメディア研究会 連絡オフィス

FUK

810 福岡市中央区桜坂 3-1-14#306 アンリミテッド

tel : (092)523-2946 fax : (092)523-2947

TYO

186-0001 東京都国立市北1-11-14

tel : (042)574-8552

「アートとマルチメディアの対話」担当プロデューサー  
運営担当幹事

岡田 智博

e-mail: tomohiro@coolstates.com